

27 発達障害ナビポータルにおける記事の更新について～医療・保健領域を中心に～

企画・情報部 発達障害情報・支援センター

中林睦美、渡邊文人、与那城郁子、石坂務、宇山秀一

中澤将人、西田紫郎、赤塚望、矢野美穂、山脇かおり

【はじめに】

当センターは、発達障害に特化した国のポータルサイト「発達障害ナビポータル」を2021年に開設し、国立特別支援教育総合研究所（発達障害教育推進センター）と共同運営・管理をおこなっている。本サイトは発達障害にかかわる必要かつ有益な情報の提供を行っていくことが課せられている。「ご本人・ご家族」・「支援機関の方」の二つの入り口を設け、それぞれのニーズに応じた内容を設置している。

【目的および手続き】

ユーザー数の増加を目指しサイト内のコンテンツの充実をはかるため、今回は“医療・保健領域”における記事の更新および新規記事の追加掲載を行うことを目的とした。そのため国立研究開発法人医療・研究機関所属または発達障害関連分野の政策研究（厚労科研の研究代表等）に従事する外部有識者に原稿依頼をした。

【結果】

- ①発達障害の診断カテゴリーに含まれる、“自閉スペクトラム症”、“注意欠如多動症”、“限局性学習症”、“トゥレット症を含むチック症”の記事について更新をした。
- ②“発達性協調運動症”、“医療受診の意義と診断までの流れ”の二本を同領域に新規追加をした。
- ③いずれの入り口内からも閲覧が可能であるトピックスに、“お薬との付き合い方”を新規掲載をした。

【考察】

外部有識者の執筆による代表的な発達障害特性に関する記事の更新により、サイト全体の信頼性の向上につながった。また、発達障害の中でも“発達性協調運動症”は5～8%の有病率¹⁾でありかつ他の障害との併存も高いにもかかわらず当サイトには未掲載であったが、今回初めて掲載を果たすことで医療・福祉領域における記事の充足を行うことができた。

“医療受診の意義と診断までの流れ”、“お薬との付き合い方”は当事者や家族そして支援者にとって関心の高い事柄であり、そうした現状に焦点をあて改めて記事にすることで当サイトの利用者への貢献につながったと思われる。今後は他の領域の見直しや改善、サイトの普及に取り組んでいくことが課題であり必要であると考えます。

1) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fifth Edition, Text Revision (DSM-5-TR®). 2022